

「サービス産業の生産性：統計利用者の立場から」
(統計委員会・意見交換会メモ)

2011.2.24

RIETI 森川

1. RIETI におけるサービス産業（を含む）生産性分析

①産業集計レベルの分析：JIP データベースの構築とその分析

⇒深尾・宮川（2008）、深尾（2010）等

②企業・事業所マイクロデータの分析：基礎データは「企業活動基本調査」、「法人企業統計」、「特定サービス産業実態調査」等。

⇒サーベイ：森川（2009, 2010）、伊藤・松浦（2010）

*これまでの RIETI 論文のうち約 110 本が生産性分析。

2. サービス産業の生産性：内外の最近の研究から

①企業間・事業所間での生産性のばらつき（dispersion）が大きいこと。

⇒集計レベルでの生産性向上の潜在的な余地が大きい。

②企業の生産性のうち IT 利用度、外資比率等公的統計のデータで観測可能な企業特性によって説明できる部分は大きくないこと。

③参入・退出、再配分を通じた「新陳代謝」が、製造業や米国に比べて十分機能していない可能性があること。他方、規制改革等が生産性に対して一定の効果をもたらしてきたと見られること。

⇒ただし、多くのサービス産業では、企業・事業所レベルの生産性を計算できるような悉皆調査が存在しないため、本当のところは良くわからない。

④市場競争（優良企業のシェア拡大、非効率企業の淘汰）を代替する内部的規律（ガバナンス）が製造業に比べて重要なこと（例：Tian and Twite, 2011）。

⑤一般に製造業と違って在庫が存在しないため、「生産と消費の同時性」（空間的、時間的）というサービス固有の特性が生産性に影響すること。

⑥非正規労働者比率が高く、労働時間の異質性が製造業に比べて大きいこと。

⇒労働市場の構造変化が進む中で、サービス産業の生産性を計測する上での大きな限界。

3. サービス産業の分析高度化のための統計上の課題

①価格データ

1) 品質調整（デフレーター）

⇒しかし、実務的には非常に難しい課題（西岡他, 2010）

2) 企業・事業所毎のアウトプット価格

②サービス生産の数量（物的）データ

③複数の統計データのリンク：特に企業又は事業所と労働者をリンクさせたデータの整備（労働時間、労働者の質、非正規雇用等のコントロール）

例：米国、カナダ、英国、フランス、ベルギー、ポルトガル、台湾等

④企業財務データや公的統計を補完するサーベイ

例：無形資産、ガバナンス、経営慣行、労使関係等

⑤業務統計の活用（学校、病院、介護施設、保育所等）

例：学校－生徒、病院－患者といったリンクデータ

⑥市区町村特性のパネルデータ（上記2－⑤と関連）

⑦政策情報と企業・事業所統計のリンク

⇒政策（制度）効果の実証的評価

〈参照文献〉

伊藤恵子・松浦寿幸（2010）, 「政府統計マイクロ・データによる生産性分析」, RIETI Discussion Paper, 10-P-010.

深尾京司（2010）, 「日本の産業レベルでの TFP 上昇率: JIP データベースによる分析」, RIETI Discussion Paper, 10-P-012.

深尾京司・宮川努編（2008）, 『生産性と日本の経済成長：JIP データベースによる産業・企業レベルの実証分析』, 東京大学出版会.

森川正之（2009）, 「サービス産業の生産性分析：政策的視点からのサーベイ」, 日本銀行 Working Paper, 09-J-12.

森川正之（2010）, 「RIETI の生産性研究について：成長政策の実務のための鳥瞰」, RIETI Discussion Paper, 10-P-003.

西岡慎一・亀卦川緋菜・肥後雅博[2010], 「サービス価格をどのように測るべきか：企業向けサービス価格指数の実例を踏まえて」, 日本銀行 Working Paper, 10-J-09.

Tian, Gloria Y. and Garry Twite (2011), "Corporate Governance, External Market Discipline and Firm Productivity," *Journal of Corporate Finance*, Vol. 17, No. 3, pp. 403-417.